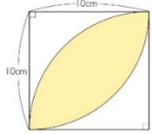
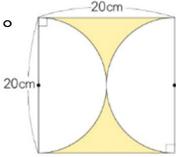


## 第6学年2組 算数科学習指導案

- 1 単元 円の面積(本時5/6+総合4)
- 2 本時の目標
  - ・既習の図形や公式を活用して、複合図形の面積の求め方を考えることができる。(思考・判断・表現)
- 3 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (4)	1 本時の学習問題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 20px;">色のついた部分の面積を求めましょう。</div> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童にとって、思考する必要性を低下させないために、全体での見通しの時間は設けず、問題提示をしたら、テンポよく課題へとつなげる。</li> </ul>
課題 (1)	2 本時の学習課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を提示する。</li> </ul>
展開 (25)	3 自力解決→自然発生的な小集団解決に取り組む。 <想定する児童の考え> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、正方形から、円の4分の1を引けばいいんじゃないかな。</li> <li>・正方形に対角線を引くと、直角三角形ができるよ。だから、4分の1の円から、直角三角形の分の面積を引けばいいんじゃないかな。そして、その2倍で出るよ。</li> <li>・4分の1の円の面積を2つ分たして、重なった部分の正方形分を引いたらどうかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問「より多くの方がノートを見ただけで面積の求め方が分かるように、考え方をかこう。」</li> <li>・順序よく的確に説明する力を身に付けるため、表現方法の意識付けをする。</li> <li>・机間指導から、想定する児童の考えが説明できる児童を把握して、一斉解決で取り上げる見通しをもつ。</li> <li>・机間指導で把握した児童の考えを一斉解決で取り上げるために、児童に考えを図に表すよう指示をする。</li> <li>・式だけでなく、図を使って表現している児童を把握して、全体で共有する。</li> <li>・<u>求積の公式を使うために、補助線を引いたり、移動をさせたりと、学習問題の図形を変形させたいことを明確にさせるために、補助発問をする。</u>◎</li> <li>・発問「どのようにして考えたの」→「線を引いた。動かした。」→「何のために」→「正方形や直角三角形、4分の1の円にするため。」→「どうして」→「公式を使うため。」という補助発問を繰り返していき、児童の考え方や活動の目的を明確にしていく。</li> <li>・取り上げる順番は、求積方法の多い順とする。</li> </ul>
整理 (15)	4 一斉解決に取り組む。  5 本時のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている形にすればいい。</li> <li>・知っている形にすれば、公式が使えるよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題に立ち返って、学習問題の図形を変形させて、既習の図形となったこと、その目的は、公式を使うためということをおさえて、本時のまとめとする。</li> <li>・1つの問題でも、多くの求積方法があることをおさえた上で、よりよい求積を意識させることをねらいとして、1つに絞って解くように条件を与える。</li> <li>・図形を動かして変形させる求積方法で考えている児童を把握して、全体で取り上げる。</li> </ul>
	6 適用問題に取り組む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 20px;">色のついた部分の面積を求めましょう。</div> 	

- 4 評価
  - ・既習の図形に見立てて、公式を活用して、自分が考えた求積方法をノートにまとめ、手順よく説明することができたか。(活動3のノート、児童への発言、児童同士の対話から)